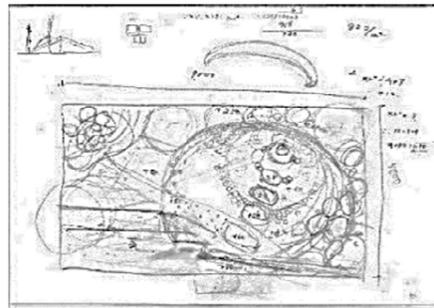
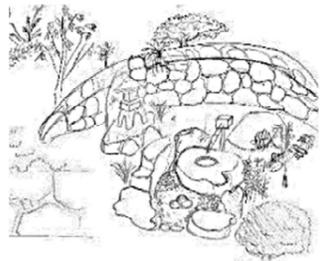


★設計図★



▲▶全体のイメージや水の流れを考え、高さを決めました。



▲各詳細図を考えました。

施工者の言葉

構想を始めたのは1年の終わり頃から。これまでの授業や森林実習で様々な北海道の自然を見てきました。それらをイメージに取り入れ、実際の山の雰囲気表現した庭にしようと計画を立てました。本当に北海道の気候に合った庭になるよう、選ぶ樹種など先生にアドバイスをもらいました。

初めて設計してみて、まず頭の中にあるものを図面に起こすことに苦労がありました。(絵心がないので…) また、予算の都合で希望の樹種が扱えないことも。そんな時にどうすれば一番理想に近づけるのか考えるのも楽しかったです。施工自体は普段の造園実習で習ったことを発揮して、完成形を思い浮かべながら、クラスメイトと協力し合い順調に進みました。今回、ある程度自分のイメージ通りに庭を完成させられたことが自信になりました！

今回は『北海道の庭』をコンセプトに、見て楽しむ庭をつくりました。

- ◆北海道の季節感(芽吹き・紅葉・落葉・越冬)
 - ◆時間の変化
 - ◆その日の天候や空気感
- これらを表現するために、地形や水の流れに注意してデザイン・施工をしました。



★施工前(9月)★



造園緑地科 2年 関口 翔太 (帯広農業高校出身)



★完成(11月)★



植栽

札幌近郊で自生している樹木や草花を中心に選びました。

- ・シラカンバ
- ・ナツツバキ
- ・ヤマモミジ
- ・アオキ
- ・カルーナ
- ・ヒューケラ
- ・ペペロミア
- ・リンドウ
- ・ベロニカ

宿根草なので冬になると一度枯れてしまいます。しかしあえて、春の雪解けと同時に新しい芽が出るという、北海道ならではの季節の移り変わりを表現しました。

★ココに注目★

樹木にはすべて剪定をかけた見た目の美しさや維持管理を考慮しています。

造園緑地科 創作庭園 (H30)

学生によるデザインから施工。造園緑地科の力を見よ！！

★施工者の苦悩★

石積みには答えがありません。納得のいく組み合わせが見つかるまで、試行錯誤を重ねました。

のづら いしづみ 野面石積

大小さまざまな自然石を用いて、その石肌の風合いを生かして、面をそろえる積み方です。すべての石をそのまま使うことは難しく、割るなどの加工をして積み上げていきます。



けん にん じ が き 建仁寺垣

建仁寺垣とは京都の臨濟禅宗(りんざいぜんしゅう)の建仁寺に最初に作られたため、この名前が付けました。完全に奥の景色が見えなくなることから、遮蔽垣(しゃへいがき)として使われています。

先生の評価

2年間で学んできた全てが集約された庭になっています。コンセプトに則し、北海道の雑木を多用して、人に近い山をつくりあげています。特に滝石組から枯山水は、山から流れ出る水の様子が違和感なく表現されていると思います。作庭に関わっていただいた札幌造園協会や講師の先生方に深く感謝申し上げます。



★No.1 こだわりポイント★
山の雰囲気表現するため水の流れをいかに自然に見せるかにこだわりました。

かれさんすい 枯山水

枯山水とは水を用いず石や砂などによって山水の風景を表現する方法です。この方法は室町時代の禅宗寺院で用いられています。枯山水は回遊式庭園や露地などの庭園と違い、実用的な要素は持ちません。そのため枯山水とは静かに鑑賞し、流れを感じ取るための様式です。



滝石組

滝石組は、実際に水を落とすものと、石だけによって水が流れているように見せる枯滝石組があります。今回は枯滝石組です。滝石組は古くから日本の庭園に用いられてきました。



学校法人常松学園
札幌工科 専門学校
 〒007-0895
 札幌市東区中沼西5条1丁目8-7
 TEL 011-791-5050
<http://www.sapporo-kouka.ac.jp>